

青木村には、保育園が1園、小学校中学校が各1校あります。村ではこの保育園・小中学校が同一の方向性のもとに保育や教育が行えるよう、またそれぞれの間の連携が密にとれるよう「保小中一貫教育」を推し進めています。これは保小中の先生方が中心となり、小中のPTAの協力、教育委員・社会教育委員の参加も得て行われている活動です。今月号では、この「保小中一貫教育」の今年度の取り組みの概要についてお伝えします。

また、青木村に合理的配慮協力員として来ていただいている森田美智子先生をご紹介します。森田先生は、小学校での特別支援教育の経験を活かし、保護者の方や先生方の支援をしていただいている方です。協力員としてのお話や保護者の方々へのメッセージをお聞きしました。



## 平成27年度 保小中一貫教育の取り組みと重点

### 子どものころを育てる

～子どもの自尊感情や自己肯定感を家庭・学校で育てるには～

保小中一貫教育委員会事務局 林 理恵（青木中学校教頭）

保小中一貫教育の発足から十年の節目を迎えた一昨年。そして、昨年は新たな十年へ向けての一步を踏み出しました。昨年度の活動を振り返って、今年度の取り組みにつながった活動として「子育てフォーラム青木2014」があげられます。「将来に生きる社会力」をテーマにしたシンポジウム。青木村はもちろん、広く県下で活躍されている4名の皆さんにシンポジストとして参加していただきました。それぞれのお立場から青木村に



における教育が将来にどのように役立っているのかをお話しいただきました。企業人とし

て、また教育にも長く関わってこられた西田不折さんのお話から、社会で求められている人間像、これからの教育の在り方についてのご示唆をいただきました。保小中一貫教育の取り組みの中で成長した若者、多田彩夏さん、若林光太郎さんには小中学校における体験を語っていただき、会場より大きな拍手が湧く場面もありました。また、保護者代表として小林規子さんより、ご自身の子育て経験と共に、現在進行形で感じている思いも伝えていただきました。そして、シンポジウムのまとめとして、コーディネーターとして参加された沓掛英明教育長より、青木村の教育として自己肯定感を育てること、躰を大切にすること、それらを育てるための方法を探っていくこと等、来年度の方向を示していただきました。保小中一貫教育の立ち上げから11年。この間の取り組みからこのシンポジウムでまとめられた方向が導き出されたものと考えます。

そして、今年度の保小中一貫教育がスタートしました。昨年度同様、運営委員会の下に推進委員会を設け、更に6つの委員会を組織します。6委員会の名称は、よりわかりやすくするために「5か条委員会」「アンケート委員会」「フォーラム委員会」「小中連携委員会」「保小接続プログラム委員会」「特別支援教育委員会」と変更しました。

「子育てフォーラム青木 2015」では、体験等を取り入れた参加型の分科会や、昨年度のシンポジウムで示された自己肯定感等の育成へ向けた講演会を行いたいと考えております。今後も青木村の皆様とともに「村を挙げての子育て」について考えて参りたいと思っております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。よろしくお願いいたします。



### 【各委員会の活動内容】

#### 1 5か条委員会

「自尊感情」をキーワードにし、アンケート委員会と連携しながら社会力の育成、家庭の教育力の振り返りと育成に向け、5か条ポイントの啓発を行っていく。

#### 2 アンケート委員会

「あおきっ子教育ポイント5か条」に関わるアンケート内容の検討、アンケートの実施、アンケートの集計と考察、アンケート集計結果の発表。



### 3 フォーラム委員会

昨年度の反省をもとに、今年度のフォーラムのテーマ、内容、タイムテーブル、展示、託児等を検討する。昨年のシンポジウムのまとめから発展させ、「子どもの心を育てるには」「大人はどう子どもに向き合うか」等、子育ての“こころ”に焦点をあてたい。

- 講師の選出や講演会の進行について
- 当日の資料作成（各委員会のまとめを含む）
- 保護者から子どもに向けたメッセージ（褒めることば、感謝のことば等）の展示
- 子どもの発表（アトラクションとして小中学校へ依頼）
- 託児に関わる準備
- フォーラム参加への呼びかけ（広報活動）



### 4 小中連携委員会

小中交流の仕方を変えていく。最小の努力で最大の効果が得られるように。

- 中学の先生による6年生理科の授業を週2時間実施（小学校理科室等で）
- 6年生の中学授業体験、行事の連携（清掃体験）
- 小中の教職員の交流（合同授業研究会、合同職員研修会等）
- 学力・体力向上に向けた連携

### 5 保小接続プログラム委員会

- 保育園と小学校の行事を活用して子どもたちの「自尊感情」を育て、保育園から小学校へのスムーズな移行ができるようにする。
- 目的意識や位置づけを明確にし、それぞれの行事が有意義なものになるよう配慮する。
- フォーラムに向けて、小学校への移行について、保護者の心配について答えられるような内容について検討する。

### 6 特別支援教育委員会

- 移行支援の充実
- 個別の支援計画の書き方（個別の指導計画をもとにした支援会議ができるように）
- フォーラムに向けて発表内容の検討



## 森田美智子先生 インタビュー

『合理的配慮協力員』として青木村の小学校・中学校にうかがうようになって、今年で3年目になります。小学校には月3~4回、中学校にも月2~3回ほど訪問し、お手伝いをさせていただいております。

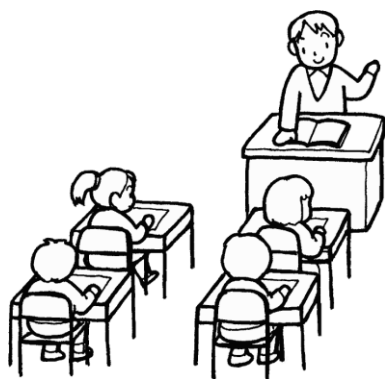


### 合理的配慮とは

個人の努力だけでは補うことの難しい苦手さや困り感を持つ子どもたちへの「個別のニーズに応じたオーダーメイドの支援」のことです。

例えば、近視・遠視の方の「メガネ」や聞こえの悪くなった人用の「補聴器」にあたるものが、教育の現場で『合理的配慮』と呼ばれています。つまり、話す、聞く、読む、書く、計算するなど様々な場面で困り感を持つ子どもたち用の「メガネ」「補聴器」にあたる効果的な指導方法や教材・教具の紹介および環境調整の仕方などを、先生方に提案したり紹介したりするのが私の役割だと思っています。

### 青木村での活動



小学校では、授業を参観し、子どもたちがつまづいていた場面や学びの様子を記録しながら、より多くの子どもたちの「分かる」「できた」につながるようなヒントを先生方にお伝えしたいと考えています。聞き取るのが苦手な子どもさんの場合は、先生の話だけで進めてしまうような授業では分からなくなってしまいがちです。言葉は消えてしまいますから、「大事なポイントは書いて残してください」「イメージが持てるように図や絵で示してください」とお願いするわけです。

担任の先生やご家族の方と一緒に、みんなでどう支援したらいいのかという方法を、考えたり役割を分担しあったりすることもあります。

苦手なことを気合と根性で克服させようとするようなやり方は、かえって子どもを苦しめることになりかねません。子どもの「頑張らせるところ」と「頑張らせてはいけないところ（大人が積極的に助けるところ）」を見極めることが大事だと思っています。子どもの苦手な部分は苦手なままに、その子が困らない程度にやんわりと残しつつ、その子の得意なやり方を使ってどう頑張ったら良いのかという頑張り方を教え、成功体験につなげることが大切だと思っています。

## 子育てのコツ

私がライフワークとして続けてきていることがあります。子育てに悩んでいる保護者との「ペアレント・トレーニング学習会」です。「子どもたちの良い行動に注目してほめることで、好ましくない行動を減らし、望ましい行動を増やしていきましょう」という子育てのコツを学び合うものです。

保護者の方は、自分のお子さんの行動を見ていて、「このことはちゃんとできる」ということよりも、「もう少し～して欲しいな」ということや「ここは絶対直して欲しい」ということの方に注目しがちではありませんか？ 命に関わることや危険な悪い行動はすぐにでも禁止しなければなりません、まず一番最初にして欲しいことは「良いところをほめる」ということなのです。



子どもはほめられるとうれしいもので、さらに頑張ろうとします。そうなってくるとこちらのアドバイスも受け入れてもらいやすくなりますし、こちらが直して欲しいなど思っていることについても「直そうかな」「協力しようかな」「頑張ってみようかな」という気持ちになってきます。良い行動が増えれば自然に悪い行動は減ってくるものです。

ところが、まず悪い行動をやめさせることから始めると、子どもは反抗的になり逆に悪い行動が増え、どんどんマイナスのサイクルに入ってしまうがちです。



大人は誰しも子どものできないところに注目してしまいがちです。でも、その子が興味を持っていることは何か、好きなことは何か、得意なことは何か、に目を向けてみましょう。子どもたちには自分に自信をもって生活して行って欲しいと思います。でも、子ども自身は、意外と自分の良いところに気が付いていないものです。まわりの大人が良いところを見つけてほめてあげることが大切です。

ほめ方ですが、まず、具体的にその子の行動をほめることが大切です。「いい子だね」「ちゃんと書けたね」は漠然としていて抽象的です。それよりも「～してえらいね」とか「まずはみ出さないで書けたね」とほめてあげた方が具体的です。

次に、こまめに回数多くほめましょう。「25%ルール」というのがありますが、これは100%できたところで一回ほめるのではなく、途中途中で細かくほめていく、という意味です。宿題ができたとき、たぶん普通、皆さんは「宿題終わったね。がんばったね」とほめると思うのですが、それを、遊びをやめたところで一言…「ゲームやめられたね。えらいね」



→宿題を準備したところで一言…「ノート開いて、やる気だね！」→宿題をしている最中に一言…「ここのところすごく上手に書けたね」→終わったところで一言…「宿題できたね。よくやったね」といった具合にです。まとめてほめるより、回数を多くほめた方が効果があります。

こうお話しすると、なかなかそんなに子どもにつきっきりではられない、と思われる方もいらっしゃるかもしれません。私も小学校の教員を長くしていましたので、夜、子どもとの時間を確保することがいかに難しいかはよくわかります。でも、たとえ15分でもいいんです。小さなことでもいいんです。毎日ほめるということが大切です。



今、小学2年生では時計の読み方の学習が始まっていると思いますが、得意な子はすぐに理解できるけれども、不得意な子にはちょっと大変かもしれません。子どもには得意・不得意がありますし、理解する丁度いいタイミングというのも子どもによって少し違います。今、苦手だったとしても、その子が本当に時計に興味を持ったり、時間を自分で知ることが必要な段階がきた時、きっとずっと理解できるようになります。同じように注意散漫でうっかり屋さんの子には、「～してみたら?」「こういうふうにやるといいよ」などとアドバイスをしますが、その時にその子の中にずっと落ちるとは限りません。意外と大きくなって、本人が自覚できる時期にきたり本人が必要に迫られた時に、「付箋を付ければ見落とさないな」とか「漏れがあるといけないから見直しを多くしよう」とか、昔のアドバイスを思い出し、自分なりに納得し工夫して行動できるようになるものです。苦手なところは長い目で見守りながらアドバイスしてあげましょう。そして得意な分野で力が発揮できるよう導いてあげたいものです。



### 編集後記

森田先生のインタビューでは、子育てに関するヒントをいただき自分自身の子育てを振り返る機会にもなりました。「そういうふうにやればいいんだ」「家に帰ってちょっと頑張ってみよう」という気持ちになりました。

今年度の「子育てフォーラム青木 2015」は、11月28日(土)に開催です。参加しやすいよう午前中に行い、保育園での託児もあります。子育てに関する講演会と各委員会による分科会が行われる予定です。子育てのヒントをおうちに持ち帰っていただき、また明日からの子育てを頑張るエネルギーに少しでもなればと思います。ご参加お待ちしております。

